

全国の情報は国立感染症研究所感染症情報センターホームページにてご覧ください。 <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

インフルエンザ(新型インフルエンザ)情報

インフルエンザ患者数は県内の内科と小児科の医療定点(199か所設置)からの報告によるものですが、現在はほとんどが新型インフルエンザ患者と考えられています。インフルエンザの定点あたり患者数は **5.19人**(先週7.15人)と減少しました。大型連休の影響による患者数の減少と思われます。

先週までの患者数は県南東部で多くなっていましたが、今週は流行の中心がやや内陸部に移り、加東保健所管内、中播磨保健所管内及び朝来保健所管内で定点あたり患者数がそれぞれ15.46人、16.00人及び18.00人と注意報基準である定点あたり10人を超えました。

患者の年齢分布は10歳未満が38%(先週37%)、10歳代が49%(同56%)、20歳以上が13%(同8%)となっており、10歳代の患者が全体の半数近くを占めています。

県内の学校でのインフルエンザによる学級閉鎖等の状況は、休校4校(前週3校)、学年閉鎖26校(23校)及び学級閉鎖63校(142校)の合計93校(先週は168校)と、休校及び学年閉鎖が増加し、学級閉鎖が減少しました。社会福祉施設等(保育所を除く)でのインフルエンザ集団発生状況は17施設(先週は20施設)とやや減少しました。詳しくは兵庫県のホームページの新型インフルエンザ記者発表資料をご覧ください。

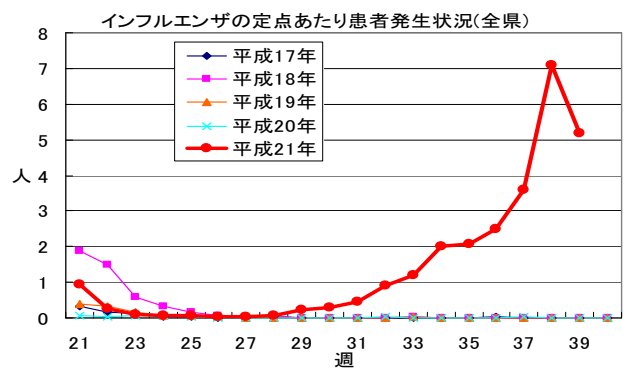
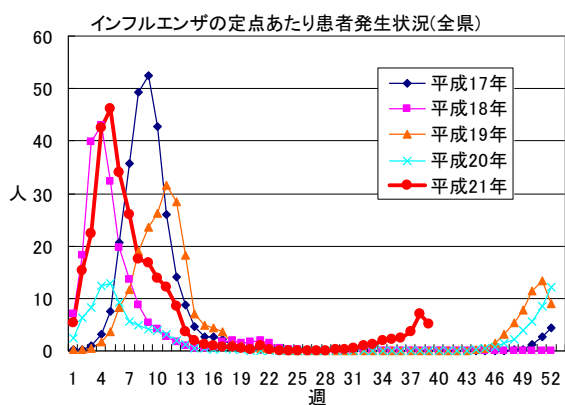
<http://web.pref.hyogo.jp/contents/000137060.pdf>

都道府県別では沖縄県、大阪府及び福岡県にインフルエンザ流行の警報レベル(定点あたり患者数30人以上)の保健所が、北海道、岩手県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、滋賀県、京都府、兵庫県、和歌山県、鹿児島県(計12都道県)に注意報レベル(定点あたり患者数10人以上)の保健所があります。

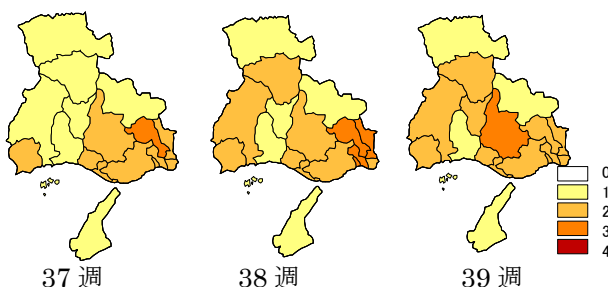
新型インフルエンザの予防として、手洗い、うがい、咳エチケットの励行、マスクの着用など、インフルエンザに罹らない、広げない対策が重要です。また、感染が疑われる場合は早めの受診が重要です。受診に際しての注意点等は次のホームページをご覧ください。

<http://web.pref.hyogo.jp/contents/000137060.pdf> (兵庫県新型インフルエンザ記者発表資料)

<http://web.qq.pref.hyogo.jp/hyogo/> (兵庫県医療機関情報システム)

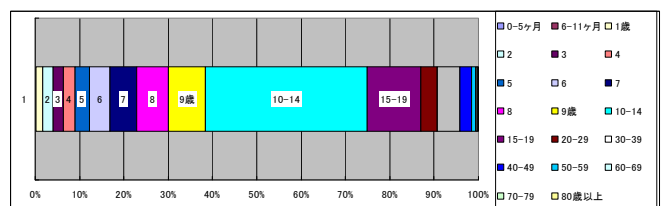


(左のグラフの部分拡大図)

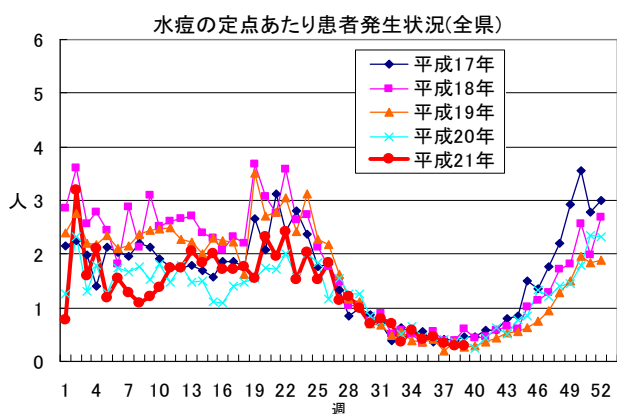
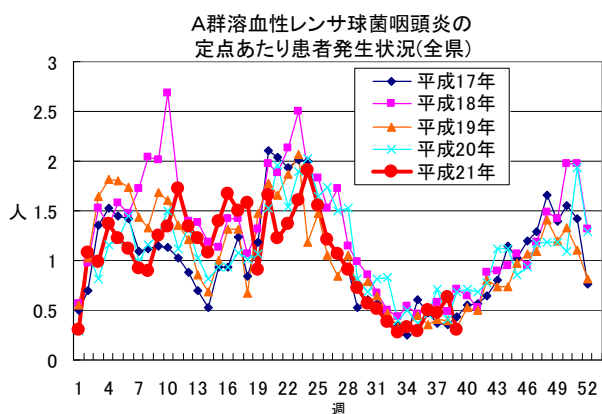
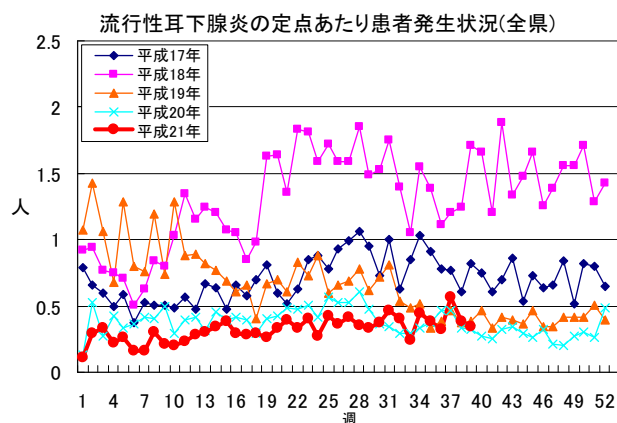
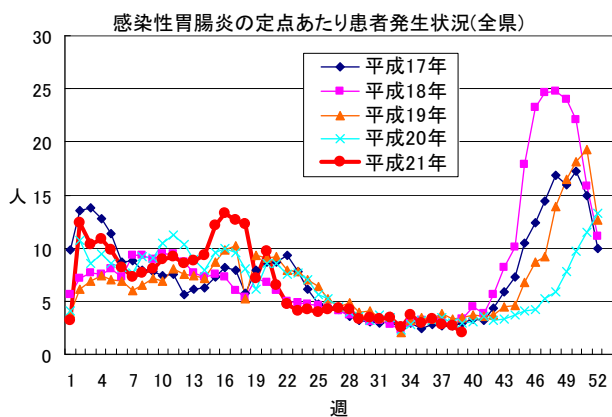


(例年の地域別患者数を基準に流行状況を色分けしています)

患者の年齢分布



目で見える動向（県内）



この週報は兵庫県立健康生活科学研究所：健康科学研究センターホームページ <http://www.hyogo-iphes.jp/> にも掲載しています。
また、<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html> から国立感染症研究所感染症情報センターの週報(IDWR)がダウンロードできます。